

# NEXCO 中日本・西日本における大雪時の当面の対応策について

## 1. 通行止めのタイミングが遅れたこと

### <事実>

○24日からの降雪により、名神において渋滞が発生し、25日3時50分には新名神草津JCTを先頭に菰野IC付近まで到達。

○新名神では全線にわたり渋滞による滞留が発生したことにより、除雪運行が困難になった。

⇒四日市JCT～甲賀土山IC(下り)は25日3時50分に通行止め

### <原因>

○渋滞による滞留が一時的と判断し、東西の大動脈の確保等の観点から、通行止め運用ルールの徹底が図られていなかったこと、また、関係機関との情報共有が不十分だった。

### <対応策>

○「予防的通行止め」の適用基準に達しない場合でも、渋滞延伸により除雪運行が困難となる等、大規模な滞留が予見される場合は、徹底した出控え要請とともに、躊躇なく通行止めを実施する。なお、上記方針について、事前に関係機関と運用方法について確認を行う。

## 2. お客さまにとって重要な情報が適切に届いていなかったこと

### <事実>

○23日には国土交通省による「大雪に対する緊急発表」、高速道路会社でも行動変容を促す広報を、あらゆる媒体を活用して展開。

○情報板、i-Highwayなど各種ツールで渋滞情報等を提供するも、滞留に巻き込まれたお客さまに対して、滞留状況や作業状況、解消見込み等に関する情報提供が十分でなかった。

### <原因>

○大規模滞留にも関わらず、通常の渋滞時(事故等)と同様の対処を行った。

### <対応策>

○大雪時の渋滞は、様々な要因で滞留につながるリスクがあるため、的確に渋滞情報等を提供するとともに、渋滞による滞留が発生した場合は、Twitterをはじめとして、あらゆる媒体を活用して滞留状況、作業状況や解消の見込みなど、きめ細かく情報提供する。

## 3. 渋滞による滞留に巻き込まれたすべてのお客さまへの支援ができなかったこと

### <事実>

○渋滞による滞留が発生した際に、車両の乗員への声掛けや救援物資の支援を実施したものの、十分に行き渡らなかった。

### <原因>

○渋滞による滞留が一時的なものと判断して、社内で体制構築して対応したものの、関係機関への救援物資などの応援要請をしなかった。

### <対応策>

○躊躇ない通行止め徹底による滞留発生防止に努めるとともに、万が一滞留の場合には、早い段階で関係機関へ情報共有し、関係機関からの応援を含めた乗員保護体制の充実を行う。

## 4. 渋滞(滞留)解消に長時間を要したこと

### <事実>

○ドライバーの不在、仮眠に対して、警察と連携した移動案内を行ったが、すべての滞留車両の離脱まで最長28時間を要した。

### <原因>

○一部車両が直ちに発進できず、人力での除雪が必要となった。

○渋滞による対応が一時的なものとし、関係機関への応援要請をしなかった

### <対応策>

○躊躇ない通行止め徹底による滞留発生防止に努めるとともに、万が一滞留の場合には、中央分離帯開口部や後方からのUターン処理などにより長期化を回避する。

○関係機関からの応援を含めた体制の充実を図る

## 5. 通行止め解除までに想定以上に時間を要したこと

### <事実>

○広範囲での圧雪による路面凍結により、安全な路面確保のための作業が想定以上に時間を要したことから、解除見込み変更が2回に及んだ。

### <原因>

○氷点下8.9度という気象条件の下で、広範囲にわたる圧雪凍結路面への迅速な対処を行うための体制を整えることができなかった。

### <対応策>

○効果的な凍結防止剤の活用や新技術など、広範囲にわたる圧雪凍結路面への迅速な対応が可能となる体制の整備を行う。